

05. 都は秋川高校へ避難した児童・生徒に物資を搬送した。

三宅村児童・生徒のための物資を下記の通り秋川高校へ搬送いたしました。

記

物資名	数量	到着日時
毛布	600 枚(60 箱)	8 月 29 日午後 6 時 25 分
アルファ化米	1,500 食(15 箱)	
クラッカー	700 食(10 箱)	
カップ麺	1,512 食(126 箱)	8 月 30 日午前 11 時 10 分

[『東京都災害対策本部 平成 12 年 8 月 30 日午後 3 時 00 分 (第 13 報)』東京都]

4. ボランティア

01. 7 月 22 日、災害救助ボランティアは民家の降灰を除去した。

7 月 22 日早朝。晴れ。台風の後波で欠航が心配されたが、災害救助ボランティア一行 140 人を乗せた定期船は無事に鋪ヶ浜港に着岸した。

午前九時三〇分。いよいよ作業開始。やっと来てくれたと、家主たちがほっとした笑顔をみせた。私たちも約束を果たせたことで、ほっとしていた。ボランティアの人たちは仮眠も十分にとれずにいたはずなのに、きびきびと体を動かして手際よく作業を進める。みるみるうちに灰を入れた土のうが積み上げられて小山をつくっていく。大勢でやる仕事は速かったし、何ととっても楽しかった。灰の降った時間が短かった家の作業は午前中にはめどがついてしまった。

一方、降灰の多かった島下や下馬野尾での作業は難航していた。風が吹くたびにまるで砂あらしのように、灰が舞う。森に積もった灰はどうすることもできない。灰は母屋と物置の間のせまいすき間にも大量に入り込んでいた。庭の方まで手をつければ、それこそ際限のない仕事になってしまいそうだった。それでも、作業終了の午後四時までには軒下はもちろん、庭も元の土が顔を出し、見ちがえるようになった。[『三宅島 島民たちの一年』三谷彰(2001), p.18-19]

3-4. 離島避難に向けての対策

1. 離島避難所の確保状況

01. 8 月 30 日までに都は受入可能な都営住宅等の数を約 270 戸の提供を予定した。

8 月 29 日現在、三宅村に提示している受入可能な都営住宅等の数は、199 戸です。8 月 30 日に、約 270 戸を三宅村に追加提示する予定です。今後も、準備が整い次第、暫時、提示していきます。[『東京都災害対策本部 平成 12 年 8 月 29 日午後 10 時 40 分 (第 6 報)』東京都]

02. 島外避難者への都営住宅等の一時提供予定戸数は、1,300～1,400戸となった。

三宅島からの島外避難者への都営住宅等の一時提供について

1 提示戸数

既提示戸数	199戸
8月30日提示戸数	270戸
一両日中の提示戸数	約200戸
その後概ね1週間以内の提示戸数	約600～700戸
計	約1,300～1,400戸
近県からの提供戸数	258戸

(中略)

2 現在までの入居決定戸数 66戸

[『東京都災害対策本部 平成12年8月30日午後0時15分 (第11報)』東京都]

03. 三宅村の小・中・高校生の島外避難者は都立秋川高等学校(全寮制)で受け入れることになった。

三宅村教育委員会は、児童生徒(全444名)を島外へ避難させることとし(9月1日14時に全員島外避難完了)、東京都に児童生徒の受入について協力要請。

これを受け東京都教育委員会は、保護者の付き添いなしで避難する児童生徒については、都立秋川高等学校で受け入れる(8月30日より順次受入) 保護者が付き添い、都営住宅等に入居する児童生徒については、入居先の近隣の学校で受け入れることとした。(転入学については、都教育委員会から各教育委員会あてに配慮依頼を実施) [『平成12年(2000年)三宅島噴火及び新島・神津島近海地震について』内閣府(2003/9), p.26]

2. ペットの問題と対策

01. 離島避難に際しペットが障害となった。

三宅島社協では、インターネットを通じて全国にペット用のキャリーボックスの寄付を呼びかけた。箱がないという理由で出発を見合わせている人もいる状況だったからだ。ペットの問題は、都営住宅に入るための最大の障害となった。[『三宅島 島民たちの一年』三谷彰(2001), p.38]

02. 東京都及び(社)東京都獣医師会でペットを一時預かりして飼育管理を行った。

都では、島外避難に伴い、住民のペットを一時預かりして飼育管理を行っています。(中略)また、(社)東京都獣医師会でも、同様に一時預かりを行っており(中略)ます。[『東京都災害対策本部 平成12年9月7日午後1時15分(第84報)』東京都]